

6.安全重点施策と取組状況



6-1 安全意識の醸成



年度毎に策定した安全計画および各部門の安全重点施策に関する行動計画の進捗状況は、輸送安全対策会議等において現業各課長から社長へ直接報告を行い、関係者全員がその状況を共有するとともに必要に応じてその計画や対策等の見直しを行っています。

現場と一体となってPDCAサイクルを機能させることにより、安全を最優先する企業風土の醸成を図り、安全の絶対確保を目指して取り組んでいます。

6-2 主な取組

■ 安全方針の理解と徹底

鉄道に携わる全従業員が、安全方針・安全目標を理解して行動できるよう、安全管理規程等の周知教育等を継続的に行うとともに、「輸送の安全を確保する最後の砦は扱う人である」ことを十分に認識し、基本動作の励行や作業手順の厳守等を徹底する職場風土の醸成に努めています。

■ 基本動作の励行 ～「見る」「見られる」の実践～

指導監督者等の添乗指導により、列車運転時の基本動作について「見る」「見られる」を実践して相互にチェックを行っています。また、個別の懇談指導を通し「事故・インシデントの多くはヒューマンエラーに起因して発生している」ということを全運転士に認識させ、ヒューマンエラーの防止に努めています。



定期的な添乗によるきめ細かな指導

■ 法令・規程の遵守の徹底

鉄道に携わる全従業員に対して安全管理規程等の社内規程や関係法令の周知教育を定期的実施し、安全を最優先した行動をとるように指導しています。



行動規範の実践



個人実践目標 (例)

■ 安全意識の高揚施策の推進

毎月、行動規範実践週間を設定し、輸送の安全の確保に係る行動規範を踏まえて一人ひとりが日々の実践目標を定め、安全意識の向上を図っています。

■ 酒気帯び運転の厳禁

乗務員の出勤点呼時に、監督者による対面での心身状態とアルコール検知器（ストロース式）による酒気帯び確認を行っています。なお、対面確認が出来ない出先宿泊者については、アルコールチェッカーとスマートフォンを接続し、画像と測定値を記録し監督者に送信して確認するシステムを導入しています。



アルコール検知器による確認



安全重点施策と取組状況

■ 覚せい剤等薬物乱用の防止

麻薬覚せい剤乱用防止の啓発ポスターの掲示や年間教育・懇談指導を通して、覚せい剤等の薬物使用の禁止について厳正に指導しています。



■ ヒヤリ・ハット情報の共有化

輸送の安全に係るヒヤリ・ハット情報は、「みんなのため」「自分のため」に非常に有益であるという意識が職場全体に浸透するよう努めています。収集したヒヤリ・ハット情報は原因を分析し、対策を立案して職場に開示しています。



各種掲示等を使った懇談指導

■ 運転の安全に係るリスク情報（気づき情報）の共有化

事故を未然に防止するため、現業係員一人ひとりが、運転の安全を損なう恐れがある危険要因や不安全な要因などを「気づき情報」として報告しています。収集した「気づき情報」は、原因を分析し、対策を立案して輸送安全対策会議に諮り、その内容を共有・周知することにより、事故の未然防止に努めています。



ヒヤリ・ハット情報とリスク情報の募集箱

■ 安全パトロール



列車添乗し作業現場を安全パトロール



作業現場に赴き安全パトロール

技術部では定期的に安全パトロールを実施しています。

これは触車事故防止実施要領や安全作業心得等が遵守され適正に業務や作業が行われているかを点検するものです。また、若手係員が監督職とともに現場巡視に帯同し、見る立場から現場を経験することにより、触車事故防止や作業手順の理解度を深めていく現場教育を定期的に行い、個々の安全意識の醸成に努めています。

■ 安全ニュース

過去に生じたヒューマンエラーや事故、ヒヤリ・ハット事例、先輩社員の実体験に基づく失敗談等を風化させることなく後輩に伝えていくことを趣旨として、「安全ニュース」（しんちゃんニュース）を定期的に発行しています。

また、風通しの良い職場環境づくりと職場内コミュニケーションの向上を図るとともに、各職場内の業務内容等を紹介することで、日々の業務を通して「チーム力の重要性」を認識させ、各職場に掲出することで現場力の向上に努めています。



しんちゃん安全 News

6-3 教育・訓練

現業各部門で年間教育訓練計画を策定し、輸送の安全の確保に必要な知識・技能の習得に努めています。

6-3-1 人材育成・技術伝承

運輸部

- 運転係・指導監督者の指導力、コミュニケーション力の向上を図るため、毎月、指導者会議を開催し、指導成果や今後の指導方針について議論し、指導の進め方を確認しています。

また、同業他社の監督者との交流も積極的に行い、監督者としての意識を高めるよう努めています。



指導者会議

- 乗務員休憩所に設置したパソコン上に、「今さら聞けないこんな話」という運転士の相談窓口を開設しています。運転士自身が抱えている日常業務での様々な疑問を匿名で書き込むことができ、それを受けて指導監督者がパソコン上で回答することにより、個々の業務知識の補完や習得を支援していくためのツールです。また、書き込まれた質問や回答は、このパソコン上で誰もが自由に閲覧することができます。



「今さら聞けないこんな話」の活用

- 目の不自由なお客さまや車椅子利用のお客さまへの介助の方法・声のかけ方などについて、新入社員教育時等に外部講師を招いて研修を行っています。

技術部

- 各課で策定した年間教育計画に基づき、階層別の作業スキルアップ訓練や習熟教育を実施し、現業係員個々の資質向上に努めています。また、知識・技能のレベルアップとコミュニケーション力の向上を図るため、同業他社を交えた業務研究発表会や技術競技会等を定期的に関催し、幅広い知識と高い技術力を兼ね備えた人材の育成を行うとともに、人的な交流も深めています。

軌道関係



レール折損応急復旧訓練



まくらぎ更換教習



確認会話訓練

電気関係



通信復旧訓練



電路復旧訓練



電気課集合教育

車両関係



車両機器(空調)OJT 教育



車両機器(制御)OJT 教育



脱線復旧訓練

● 業務研究発表会等の開催

技術部各課では、技術情報の共有化と知見を深めることを目的として、同業他社との合同業務研究発表会や施工会社と協働した補修工事における事故対応情報伝達訓練を実施しています。

また、車両課では、個人の車両検査技術の理解度と技量を客観的に把握するための技術審査会を定期的を開催しています。



業務研究発表会（土木）



業務研究発表会（電気）



事故対応情報伝達訓練



業務研究発表会（車両）



車両技術審査会

6-3-2 ヒューマンエラーの防止

■ 運転士集合教育を通じた良好な職場環境づくりと安全意識醸成施策

実地による運転操作、映像による注意予見等の予防教育や速度厳守に対する掲示・懇談を実施しています。また、集合教育において他社事故事例をもとに各自が考える「安全、安心、快適」について、グループディスカッションを実施し、安全意識の醸成に努めています。

(グループディスカッション)



●映像による予防教育



●集合教育

6-4 合同訓練

各部門間で連携した対応が求められる大規模災害や事故等を想定して、鉄道事業本部内にて共同で各種訓練を実施しました。

■ 自然災害を想定した事故復旧対応訓練

1. 実施日時 2022年11月11日(金) 13時～16時
2. 実施場所 見津信号場 車庫構内
3. 訓練想定 台風接近に伴う集中豪雨により、粟生線 藍那駅構内（起点2K900M付近）の下り線側法面が幅5m高さ10メートルにわたり崩壊、土砂および倒木が軌道内に流入し下り線を支障。第12401列車（1501-1601-1502号車）は、崩落場所の手前約100M付近を時速約40km/hで走行していたところ、起点2K900M付近の法面が崩落してくるのを発見、直ちに非常ブレーキの処置を採るも、なだれ込んだ土砂に先頭車両が乗り上げて停止。幸いにも脱線には至らなかった。また同時に倒れ掛かってきた木が車両パンタグラフに接触、他の倒木が西側窓を突き破り数名の負傷者が発生する事故となった。
4. 訓練課題
 - (1)各部署間の意思疎通を十分に図り、作業者間の意思伝達に齟齬がないよう、「確認 会話」を徹底し、確実な情報伝達を図ること。
 - (2)復旧に際して「慌てず」冷静な判断と的確な指示の重要性を周知し、「触車・感電・墜落」といった二次的災害や事故を起さないこと。
 - (3)スムーズな復旧作業を図るため、指揮・命令系統の確立と役割分担を明確にし、必ず責任者のもと、忠実、着実に作業を進めること。
5. 訓練内容
情報伝達訓練、避難誘導訓練、復旧訓練（土木復旧訓練・車両復旧訓練・施設復旧訓練・電力復旧訓練）

状況確認



被害状況の確認と情報収集訓練

避難誘導



非常用避難梯子等を使用したお客さまの避難誘導訓練

復旧訓練



各部門による災害復旧訓練

安全重点施策と取組状況

■ 列車運転休止時の代行バス輸送訓練

近年、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、オンライン方式でシミュレーションによる代行バス訓練を実施していましたが、2022年度の代行バス訓練は、実際に貸切バスを使用しての、代行バスルート・バス停位置・バス添乗係員の告知用語の確認など、旅客案内方の訓練を実施しました。

○実施日：12月7日（水）

〈走行区間：粟生線 西鈴蘭台駅～志染駅間〉



代行バスルート・バス停位置・バス添乗係員告知用語の確認

■ 異常事態発生〔刃物所持者〕対応訓練

昨今、公共交通機関において無差別な刺傷事件が多発したことを受け、列車内で刃物を使用した犯罪発生を想定し、迅速・適切なお客様の避難誘導、社員の意識・対応力の向上、また、沿線警察や消防をはじめ関係機関との連携強化を目的として、異常事態発生対応訓練を実施しました。

○実施日時：2022年7月12日（火）10時00分～12時00分

○実施場所：谷上駅構内1・2番線および改札階コンコース



安全重点施策と取組状況

■ そのほかの訓練

・ 触車事故防止実施要領に関する実地講習

普段の業務で線路内へ立ち入りの機会が少ない運輸部係員を中心に、業務を委託している請負業者の係員も参加し、触車事故の防止や作業手順の理解度の向上を図る実地講習会を開催しました。

当日は技術部施設課員を講師に迎え、線路内作業や線路内を歩行する際の注意点などを再確認しました。



実地講習状況

6-5 安全に関する設備投資

山間部が多い当社沿線では激甚化する自然災害への対応として法面や橋梁等の構造物を補強する防災対策を計画的に進めています。

過去5年間の安全に関する設備投資の実績は、右のとおりです。



線路・土木構造物

●軌道の強化

PCまくらぎ化や分岐器の更新を計画的に推進するとともに、道床更新等を適宜実施し軌道を強化しています。

【PCまくらぎ】

PCとはプレストレスト・コンクリートの略で、寿命が50年程度で木製より耐久性が高いコンクリート製まくらぎのことです。



湊川駅～長田駅間
軌道改良工事（道床更新）



広野ゴルフ場前駅構内
PCまくらぎ化工事



有馬口～五社間 1K020M 付近 排水施設工事



●法面・橋梁等の補強

近年、頻発化している局所的・集中的な豪雨等に備え、計画的に法面・橋梁等のインフラ構造物の補強を順次進めています。

●ホームの改良



ホーム下部工取替
（大村駅）



ホームの嵩上げによる段差解消と内方線の整備
（田尾寺駅）

目のご不自由なお客さまのホームからの転落を防止するため、内方線付点状ブロックの整備を順次進めています。



- バリアフリー化工事
各駅の段差を解消するバリアフリー化を計画的に進めています。2022年度は花山駅下りホームにスロープを新設整備しました。

電 気

- 支持物の建替
電車線を支持している電柱の耐久性向上を図るため、コンクリート柱化を推進しています。2022年度は粟生線、三田線の2区間で6基を更新しました。



粟生線 鈴蘭台西口駅～西鈴蘭台駅間



三田線 神鉄道場駅～横山駅間

- 踏切非常通報押ボタンの設置
上通池第1踏切道（広野ゴルフ場前駅～志染駅間）
居屋ヶ谷第3踏切道（有馬口駅～五社駅間）に
踏切非常通報押ボタンを設置しました。

【踏切非常通報押ボタン】
ボタンを押すことにより踏切道に接近する列車に対して
異常を知らせる装置



上通池第1踏切道

車 両

- 運転支援装置設置工事
運転支援装置は、速度超過等を未然に防止することを目的に、ヒューマンエラーが発生しやすい場所を対象としてATS照査地点の手前で速度超過やブレーキ操作の遅れなどを検出し、運転士に対し音声と光で注意喚起を行うことで、安全性の向上を図る装置です。現在、計画的に設置を進めており、2022年度は14編成に設置しました。



- 補助電源装置の更新
2000形車両のSIV装置を更新し、信頼性の向上を図りました。

